食の時記 まくらざき味探訪

我が家の七草粥

お粥が焦げ付かないように十分気を付けましょう。
味をつける前に、薄切りにした餅を入れたら、さらにおいしくいただけると思います。

山下 已結子さん（79・中町）

●材料

米	1カップ
人参	中1/2本
大根	中1/2本
かぶ	1個
さといも	3個
生しいたけ	5枚
かぶの葉	3枚
春菊	3枚
出汁（鰹節と昆布）	適量
薄口しょうゆ	少々
塩	少々

●作り方

①人参と大根、かぶは細切り、生しいたけは細かく刻み、さといもは小さめのいちょう切りにする。かぶの葉と春菊も小さめに切っておく。
②大根・人参・かぶ→さといも・しいたけ・米の順に材料を入れる。そこに出汁を流し入れ、火を点ける。
③沸騰してきたら弱火にし、さといもが柔らかくなるまで煮る。
④さといもが柔らかくなったら、味を調える。
⑤火を止める前に、かぶの葉と春菊を入れ、混ぜ合わせたら出来上がり。

稚内便り

新年あけましておめでとうございます。

こちらでは、いよいよ冬真っ盛りです。毎日の除雪もとても大変で、早く冬将軍が去っていくのを稚内市民は今か今かと待っています。

今月は冬のイベントなどをご紹介します。

◆氷雪の広場が開催されます！

2月には冬の一大イベント「氷雪の広場」が開催されます。イメージとしては雪まつりです。

雪合戦、スノーフラッグ大会をはじめ、雪の巨大迷路や滑り台、キャラクターショーなど、寒さを忘れて楽しめること間違いなしです。しかし、相手は天気という強敵なので、猛吹雪の中…という場合もあり、寒さを忘れることができない時も「たまには」ありますが、ぜひ、楽しい稚内の冬のイベントにお越しになってみてはいかがですか？

▲大人でも迷うかも？「雪の巨大迷路」

◆さまざまなウインタースポーツが楽しめます

稚内の冬は、楽しいスポーツが盛りだくさんです。特におすすめなのは、スノーモビル体験やゴムボートに乗りスノーモビルに引っ張ってもらうスノーラフティング、雪上車体験、そして犬ぞり体験などです。

あと、穴場としては声問川（トイトイ）での「チカ」という魚の穴釣りです。川を覆った分厚い氷に穴を空け、チカを釣り、寒い中、その場で天ぷらにして食べると絶品です！

▲冬の醍醐味！声問川でのチカ釣り

雪国でなければ体験することができない、いろいろな冬のスポーツを体験しに稚内へ来てみませんか？

■問合せ先 稚内市秘書広報課広報グループ
TEL 0162-23-6387

もっと知ろうよ枕崎

第5回

「歩く」おもてなし

エンターテイナー“ちゃんサネ„さんと一緒に、
枕崎のことをいっぱい知って枕崎愛を育て、
あなたが案内する観光のおもてなしにも役立てましょう。

枕崎を訪れたお客さんに「まくらざき」の名の由来をお聞かせした後、車中で鰹バーガー、枕崎鰹船人めし、かつおラーメンといった鰹を使った料理や新しくできた縁結び出汁愛そば、枕崎鰹大トロ丼の話などをしながら火之神公園辺りの景色見物をして、ついでに「ぷ・べ・ぱん」といった枕崎の方言の豊かさについても話しました。

では今度は、街中をちょいと歩いてみましょうか。

■青空美術館

皆さんは「芸術作品」て、何だと思いますか。

あたしゃこう思うんです。「なければないで別に生活に不足するようなものじゃないけれど、そこにあって愛着のわくもの。どっかにあって、実によきもの」

枕崎の街道沿いには、日常生活で見かけない形の作品が並んでおります。

不思議なものですな。何度か見かけるうちに馴染み感がわいてきました。作品の題名を見ると「へえ～”たまきはる～ひとつの空”だったかあ」といつも思うんですが、あたしは勝手に「骨ちゃ、きみは骨ちゃんだ」と思っております。

■オブジェの存在

あたしの家の前には「傷つきやすい現代人」という黒い胸像のようなオブジェがあります。あたしゃたまにその作品に手を合わせて礼をして、手で撫でたりしてたのですが、ある時、散歩中のおじさんがオブジェの前に立ち止まって会釈をして去るのを見かけました。ドキっとしたあと、何か心の底で温かいものがわき起こりましたねえ。オブジェがある意味お地蔵さんに近い存在にも感じましたね。なくなったらとても寂しくなるというか。それくらい愛着がわいております。

その下に生えている草や脇の樹木にそのような思いを抱いたことはありませんでした。草木にふと何か思うことがあるかもしれませんが、生き物でもないこのオブジェの方がやはり存在感があります。何と言うか…ずっと「そこにいるモノ」みたいな。

■それぞれの感じ方

観光で訪れた人と、少しばかりオブジェが並ぶ沿道を歩いてみたらいかがでしょう。

このモノたちをつかまえて「ああだ。こうだ。そうでもない。こうなんだろう」とか話し合いながら気ままに好き勝手に。

それはきっと豊かなひとときだと思いますなあ。なくては困る電信柱について語っているのではなく、そこにたまたまある、見るためのモノ。それについて思うモノ。それで語るモノ。しかも「一般にこうなのだ」といえるものではないモノであります。

■人間は芸術作品の元祖？

我々一人ひとりは、ひょっとしたら芸術作品の元祖かも知れません。

人間は、何かの役に立たないといけないというものではありません。日常で必要な道具でもありません。ただ、愛着や愛情によって育てられ生きているものであります。人がもともとそのようなものだから、こういうモノを人は作って、飾ったり眺めたり拝んだりとかするんでしょうねえ。

芸術作品は「日常品の形ではない」ということ。何かヘンテコリンな感じがしますが、あたしには、それがとても人に近い感じがしてなりません。

こんにちは　わげやわがらん
おまんさあ
（唱）見っどっうぢに
ボンノがちだいこら